

いわき市病院事業中期経営計画
（2024～2027）

評価報告書
（令和７年度分）

AGENDA

1. はじめに
2. 収支サマリー
3. 基本方針ごとの自己評価の報告

はじめに

「いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）」では、これまでの中期経営計画等の成果を踏まえつつ、更なる診療機能の充実や安定した経営基盤の確立を図るとともに、自治体病院として果たすべき役割や中期的な見通しに立った経営指針を明確にすること、並びに病院が目指すべき方向性となる「ビジョン」を掲げ、その達成に向けた「基本方針」等を定めています。

このたび、**令和７年度における当センターの取組みや成果について、外部有識者等で構成する「いわき市医療センター病院経営評価委員会」の助言・意見をいただきながら点検・評価**を行い、その内容を取りまとめましたので報告します。

評価の基準

達成度	評価
100％以上	A
85～99％	B
70～84％	C
50～69％	D
50％未満	E

評価手順

1. **自己評価**
2. **病院経営評価委員会における意見等の聴取**
3. **②を踏まえた評価票を公表**

基本方針

- ✓ **良質な医療の提供**
- ✓ **医療スタッフ等の確保と育成**
- ✓ **非常時に備えた病院づくり**
- ✓ **経営基盤の強化**
- ✓ **評価の視点を取り入れた経営の推進と経営形態の調査研究**

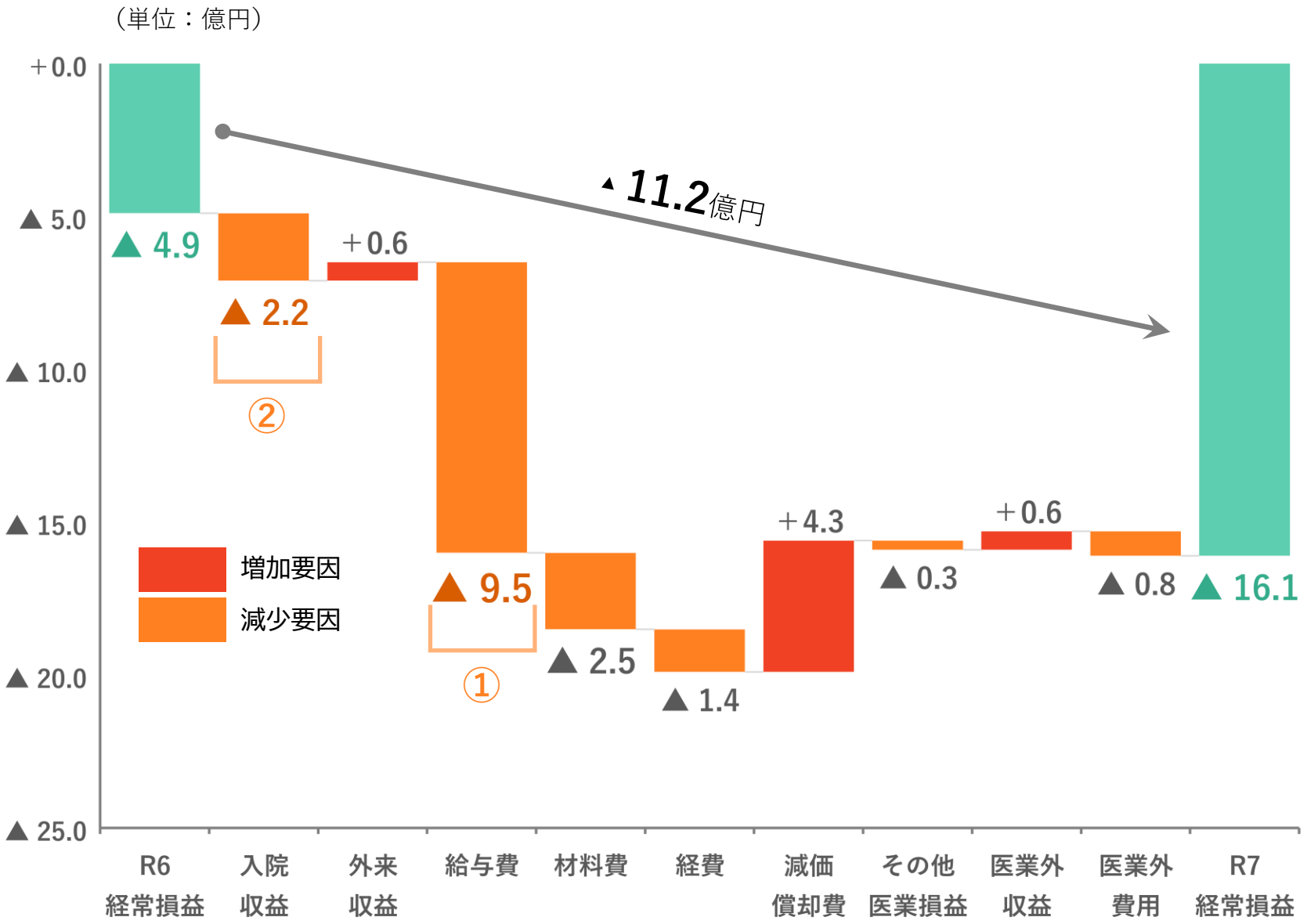
収支サマリー

- 経常収益から経常費用を差し引いた経常損益は**16.1億円の赤字**で、特別損益を加えた純損益は11.2億円の赤字（経常収益の前年比▲11.2億円）。

（単位　億円）

科目	R6年度 実績	R7年度 計画値	R7年度 実績	対前年度	対計画値
医業収益	210.9	199.2	**209.1**	▲ 1.8	＋9.9
医業費用	245.0	229.7	**254.1**	＋9.1	＋24.4
医業損益	**▲ 34.1**	**▲ 30.5**	**▲ 45.0**	**▲ 10.9**	**▲ 14.5**
医業外収益	41.8	39.7	**42.4**	＋0.6	＋2.7
医業外費用	12.5	11.4	**13.3**	＋0.8	＋1.9
看護専門学校収益	1.6	1.7	**1.7**	＋0.1	＋0.0
看護専門学校費用	1.8	1.8	**1.8**	＋0.0	＋0.0
経常損益	**▲ 4.9**	**▲ 2.3**	**▲ 16.1**	**▲ 11.2**	**▲ 13.8**
（経常収支比率）	(98.12%)	(99.00%)	**(94.03%)**	(▲ 4.09%)	(▲ 4.97%)
純損益	**▲ 4.6**	**▲ 2.3**	**▲ 11.2**	**▲ 6.6**	**▲ 8.9**

収支サマリー



主な増減要因

① 給与費

- 県人事委員会勧告に基づく給与の増額改定
  (R7：+**2.97**%)
- 給与支給対象者数の増加
  (対前年：+**39**人/月)

② 入院収益

- 出生数の減少や子宮がん患者の減少により産婦人科の収益が減少
  (対前年：▲ **2.2**億円 ▲**16**%)

基本方針

地域の中核病院・自治体病院として良質な医療の提供	地域の高度急性期医療を担う中核病院として更なる診療機能の充実を図るとともに政策医療を着実に提供する	総合評価 A
良質な医療の提供を支える医療スタッフ等の確保と育成	常勤医の招聘、研修医の確保、専攻医受入推進、医療スタッフの確保のため、各所への働きかけ強化、採用手法の柔軟化や研究研修機能の充実強化を図る	総合評価 A
非常時に備えた病院づくり	COVID-19や東日本大震災の経験を踏まえ非常時にも医療を提供できるよう準備をする。また、多様化する災害に対応するため関係各所との連携を強化する	総合評価 A
持続可能な地域医療提供体制を確保するための経営基盤の強化	地域の中核病院として、地域医療を守るため、収入の確保・支出の適正化に努め、持続可能な経営を目指す	総合評価 B
評価の視点を取り入れた経営の推進と経営形態の調査研究	安定した経営基盤の下で、将来にわたり、持続可能な医療提供体制を確保するため、他の経営形態の動向等について調査研究を進めます。	総合評価 A

地域の中核病院・自治体病院として良質な医療の提供

地域の高度急性期医療を担う中核病院として更なる診療機能の充実を図るとともに政策医療を着実に提供する

中核病院としての責務は全うしている

救急車受入台数や分娩件数は目標を下回ったものの、悪性腫瘍手術件数など地域の高度急性期医療を担う中核病院としての責務は全うしていると評価する。
地域医療機関訪問時のご意見等をフィードバックしながら、更なる連携強化を行うとともに、診療実績の蓄積とその成果を広く周知しブランド力強化に努める必要がある。

総合評価
A

高度・急性期医療等の充実

救急車受入台数	B 評価
悪性腫瘍手術件数	A 評価
放射線治療件数	B評価
外来化学療法件数	A 評価
分娩件数	B 評価

地域医療機関との相互役割分担の推進

紹介患者数	A 評価
逆紹介患者数	A 評価
医療機関訪問件数	A 評価

安全で安心な医療の提供と信頼される病院づくり

ヒヤリハットレポート	A 評価
医療福祉相談件数	B 評価
SNSへの投稿回数	A 評価

1 **DPC特定病院群の指定継続**

R7目標値：指定継続

R7実績：指定継続

A

2 **急性期充実体制加算の施設基準維持**

R7目標値：基準の維持

R7実績：基準維持

A

自己評価

- **R8年2月に厚労省からDPC特定病院群の内示**
- 『手術症例1件当たりの外保連手術指数』
  R4改定：特定病院群の基準未達成
  R6改定：〃 達成
  R8改定：〃 達成
- 急性期充実体制加算の施設基準も維持

高度急性期病院としての役割を果たしていると評価されたものと受け止めている。

3

救急車受入件数

R7目標値：4,300件

R7実績
4, 183件

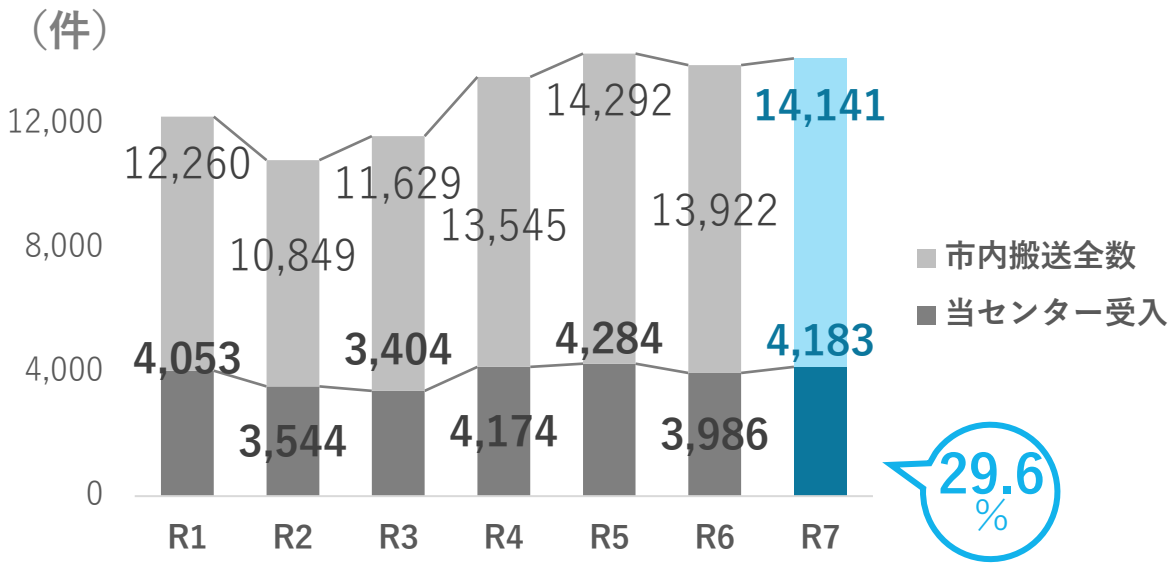
B

自己評価

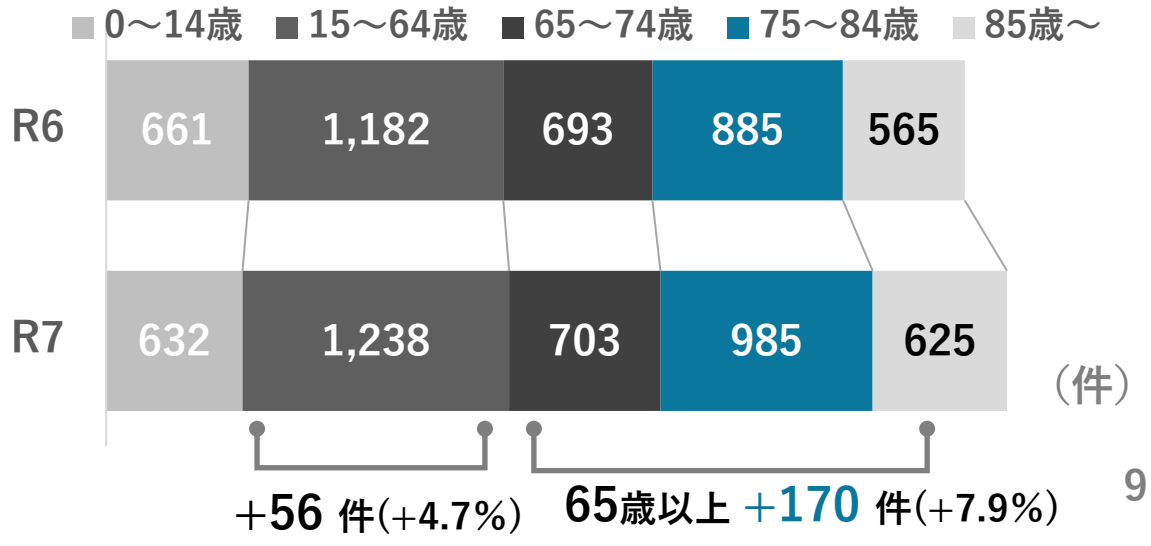
- 市内全体の搬送件数：前年度＋**79**件
  うち、当センター搬送割合　前年度＋**1.0**%
- 当センターの受入件数：前年度＋**197**件

目標値を約120台下回ったものの市内での役割は維持できていると評価する。
なお、R8年度以降は応需率を評価指標とする。

救急車受入件数推移



年齢別救急車受入患者



4 **悪性腫瘍手術件数**

R7目標値：800件

R7実績
968件
A

5 **放射線治療件数**

R7目標値：6,000件

R7実績
5,314件
B

6 **外来腫瘍化学療法診察料等算定件数**

R7目標値：4,000件

R7実績
4,362件
A

自己評価

- 放射線照射件数
  血液内科▲217件（269→52件）
  産婦人科▲724件（760→36件）
- 化学療法件数（入院ケモ含む実施件数）
  血液内科＋200件（1,319→1,519件）

がん患者に対して**様々な選択肢を提示**した結果だと受け止めています。

R7年10月には「がんゲノム医療連携病院」に指定され、R8年度から本格的にがん遺伝子パネル検査等を開始できており、地域がん診療拠点病院としての役割は果たせていると考える。

7

分娩件数
（帝王切開含む）

R7目標値：700件

R7実績

668件

B

自己評価

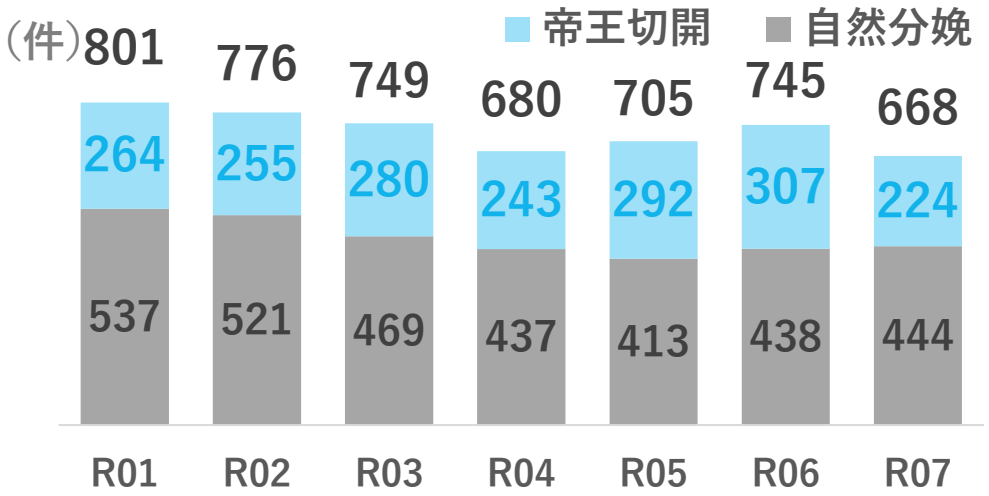
- 市内全体の出生数対前年比▲159件
- 当センターでの分娩数対前年比▲**77件**

  自然分娩 +6件　帝王切開 ▲83件
- 市内出生数に占める当センター分娩数 **48%**

目標値は下回ったものの、地域での役割は果たせたと評価しています。

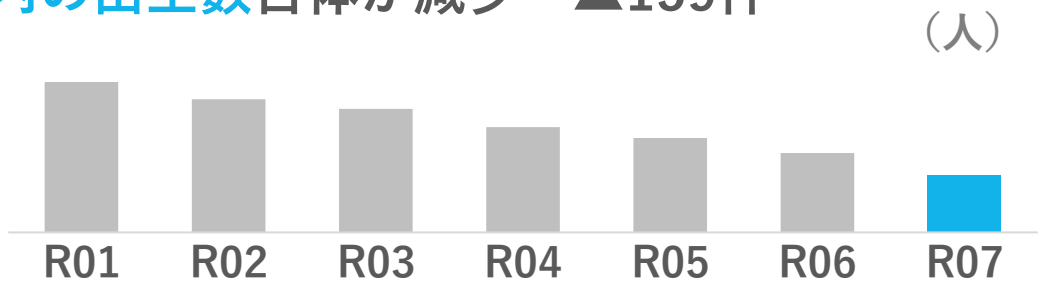
分娩件数推移

✓ R7は**帝王切開**が大幅に減少　▲83件



市内分娩件数推移

✓ **市内の出生数**自体が減少　▲159件



	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07
出生数	2,061	1,940	1,872	1,742	1,665	1,560	1,401
対前年		▲ 121	▲ 68	▲ 130	▲ 77	▲ 105	▲ 159
地域貢献率	39%	40%	40%	39%	42%	48%	48%

8

紹介患者数

R7目標値：13,000人

R7実績
13,863人

A

9

逆紹介患者数

R7目標値：10,500人

R7実績
11,978人

A

10

地域医療機関への訪問活動

R7目標値：24件

R7実績
24件

A

自己評価

- 呼吸器内科、歯科口腔外科で紹介患者が増加
  対前年比　呼内 +**168**人（164→332人）
  口腔 +**163**人（451→614人）

R7年度は目標値を達成することができ、R8年度は、皮膚科や呼吸器内科に常勤医が着任し、体制を強化できたことから、前方連携をさらに強化し、新規患者の増加を図っていきます。

- 地域医療機関訪問内訳
  内科系：19件　外科系：3件　泌尿器系：1件
  その他総合病院：1件

内科系の医療機関を中心に、**前方連携強化**に努めました。

11 **ヒヤリ・ハットレポートの提出件数**
（リスクマネジメントの強化）
R7目標値：3,000件

R7実績
3,284件
Ⓐ

12 **医療福祉相談件数**
（相談窓口体制の充実）
R7目標値：20,000件

R7実績
16,999件
Ⓑ

13 **病院機能評価認定**
R7目標値：継続

R7実績
継続
Ⓐ

14 **患者満足度調査の実施**
R7目標値：実施

R7実績
実施
Ⓐ

自己評価

- 事象レベルX1(未然に防いだ報告)が減少
  対前年比▲226 件（1,493件→1,267件）

- マイナ保険証の適用により限度額申請等申請に係る医療相談が減少 対前年▲**198** 件(▲**17** %)
- MSWの人数減により介入件数が減少

- R6年7月『病院機能評価一般病院2 Ver.3.0』認定
- R7年7月『患者満足度調査』実施
  入院：回答率 40.7% 平均満足度 87.4点(▲2.2)
  外来：回答率 53.0% 平均満足度 84.8点(+0.3)

面会時間の延長や駐車料金無料化に関する意見などが寄せられました。

15 **ホームページ・広報誌等による適切な情報発信**

R7目標値：実施

R7実績

実施

Ⓐ

16 **Facebookへの投稿**

R7目標値：10回以上/月

R7実績

18回/月

Ⓐ

17 **Instagramへの投稿**

R7目標値：10回以上/月

R7実績

18回/月

Ⓐ

18 **市民公開講座の実施**

R7目標値：年1回実施

R7実績

年1回実施

Ⓐ

自己評価

- 広報誌年３回発行⇒医療機関・支所等に配布
  R8年度から➡認知度向上を図り、概要版を市内全戸に回覧するよう見直しをしています。
- Instagramフォロワー
  R7.3月 800人 → R8.3月 1,569人(**約２倍**)
- Instagram 1投稿当たり閲覧数
  対前年 +**718**回（777回 → 1,495回）

投稿内容を工夫したことにより、当センターの広報力は向上していると受け止めています。

- R8年2月開催　テーマ「消化器がん」
  例年を上回る250名超が来場

良質な医療の提供を支える医療スタッフ等の確保と育成

常勤医の招聘、研修医の確保、専攻医受入推進、医療スタッフの確保のため、各所への働きかけ強化、採用手法の柔軟化や研究研修機能の充実強化を図る

確保は◎だが、育成の推進も必要

常勤医師数の増加、臨床研修医フルマッチという結果から、医療スタッフの確保は十分にできたと評価する。
引き続き、医師労働時間短縮に向けたモニタリングや離職防止に向けた環境整備などを推進するとともに、診療報酬制度などが複雑化する中で、事務職員等医療スタッフの育成にも力を注ぐ必要があると考える。

総合評価
A

良質な医療の提供を支える医療スタッフ等の確保と育成

- ■ 常勤医師数 — A評価
- ■ 研修医マッチング率 — A 評価
- ■ 病院実習受入れ — A 評価

医療スタッフ等の離職防止・復職支援

- ■ 勤務条件の改善に向けた検討・実施 — A 評価
- ■ 院内保育所の延べ利用児童数 — B評価

医師の働き方改革の着実な推進

- ■ 「医師労働時間短縮計画」の実現に向けた取組の実施 — A 評価
- ■ 年次休暇取得日数 — A 評価

19 **常勤医師数**
（翌年４月１日時点）

R7目標値：141人以上

R7実績
153人

Ⓐ

20 **臨床研修医(医科)のマッチング率**

R7目標値：100%

R7実績
100%

Ⓐ

21 **病院実習・見学の受入件数**

R7目標値：170件

R7実績
247件

Ⓐ

自己評価

- **常勤医師数**　対前年比＋**15**人（138→153人）
  消化器内科：+2人　呼吸器内科；+1人
  心臓血管外科：+3人　皮膚科：+1人

大学医局への働きかけや寄附講座開設により、目標値を達成することができました。

- **病院見学の受入件数**が増加
  病院見学：R4 88件 R5 101件 R6 123件 **R7 138件**
  病院実習：R4 117件 R5 109件 R6 119件 **R7 106件**

東北だけでなく、関東(東京)の病院説明会にも積極的に参加したことで病院見学者の増加、7年連続臨床研修医フルマッチに繋がりました。

22

勤務条件の改善に向けた検討・実施

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

自己評価

- R7年4月～ 救急輪番日に勤務する**看護師長等に対する手当**を新設
  病院運営に応じた処遇改善を図りました。

23

院内保育所の延利用児童数

R7目標値：528人

R7実績

512人

B

- **3歳児利用者数が計画値より減少**
  2歳児　計画：**120**人 実績：**213**人(対計画 +93人)
  3歳児　計画：**144**人 実績：**26**人(対計画 ▲118人)
  3歳児から転園する児童が多く、当初計画より3歳児の利用者数が大幅に減少し、目標値を下回りました。

24 「医師労働時間短縮計画」の実現に向けた取組の実施

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

自己評価

- 労働時間短縮計画（時間外・休日労働時間
  - ✓ 全医師がB水準(1,860h)を下回った
  - ✓ 対象13科のうち４科が計画最終年度であるR9年度の目標値を上回った

呼吸器外科	目標 1,037h → 実績 1,045h
未熟児新生児科	目標 1,490h → 実績 1,549h
心臓血管外科	目標 1,143h → 実績 1,163h
救命救急C	目標 1,406h → 実績 1,455h

（時間は1人当たりの平均労働時間・目標はR9の目標値）

引き続き、モニタリングや面談等の実施に努めます。

25 年次休暇取得日数（職員１人当たり平均）

R7目標値：９日

R7実績

9.55日

A

- 部署別の年休取得日数(1人当たり平均)

  薬局：対前年比+2.24日（14.06日→16.30日）

  医師：対前年比+0.37日(6.07日→6.44日)

非常時に備えた病院づくり

COVID-19や東日本大震災の経験を踏まえ非常時にも医療を提供できるよう準備をします。また、多様化する災害に対応するため関係各所との連携を強化します。

災害拠点病院として準備ができている

医薬品等の供給に大きな影響を及ぼす世界の情勢等について情報収集を行うほか、感染症対策についてもマニュアルを改訂するなど、非常時に備えた準備ができていると考える。
また、自然災害発生時に備えた備蓄食料の確保や、BCP計画に基づく活動など災害拠点病院としての責務を果たすための取組みがなされていると評価する。

総合評価
A

新興感染症等の拡大に備えた普段からの取組み

- 院内感染対策研修会 — A評価
- 緊急事態に備えた医療資材（代替品等）の確保策に係る検討及び生産・流通に係る情報収集の強化 — A評価
- 地域連携カンファレンスの開催 — A評価

感染拡大時における各医療機関間での連携・役割分担の明確化

- 県との協定の履行 — A評価
- 感染症拡大時の入院患者受入れ体制整備 — A評価

自然災害等に備えた普段からの取組み

- 事業継続マネジメント（ＢＣＭ）活動の実施 — A評価
- 備蓄食料等の確保・更新 — A評価

26 **院内感染対策研修会の実施**

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

27 **緊急事態に備えた医療資材（代替品等）の確保策に係る検討及び生産・流通に係る情報収集の強化**

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

28 **地域連携カンファレンスの開催**

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

自己評価

- 院内感染対策研修会
  R7年8月に院内で発生したCRE感染症(スーパー耐性菌)の事例等のフィードバック

- 中国産の医薬品を備蓄
  アメリカの関税政策や中東情勢の悪化等を受け、解熱鎮痛剤、抗生剤など原薬が中国産の医薬品について2～6か月の備蓄を実施

- 年4回開催（5月、7月、11月、2月）
  地域の医療従事者と活発に議論

29

県との協定の締結・履行

R7目標値：履行

R7実績

履行

A

自己評価

- 『第一種協定指定医療機関』継続指定（R6～）

県から病床確保の要請はありませんでしたが、体制は整備されています。

30

感染症拡大時の入院患者受入れ体制整備

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

- 院内感染対策マニュアルの改訂

1月下旬から2月にかけて発生したCOVID-19の院内感染を受けて、一部改訂した。

例　COVID-19感染患者・疑い患者等の定義を明記

病棟閉鎖・面会制限発令の独自基準を明記

実際の事例をフィードバックし、感染症患者への対応を強化しました。

31

事業継続マネジメント（ＢＣＭ）活動の実施

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

自己評価

● 大規模地震時医療活動訓練に参加

当センターDMATチームが、政府主催の『大規模地震時医療活動訓練』に参加し、技術向上や関係機関との情報共有等を行いました。

32

備蓄食料等の確保・更新

R7目標値：実施

R7実績

実施

A

● 備蓄食料　**8,100**食分常時確保

900人(患者400人、職員500人)×３食×３日分

備蓄食料は非常食更新計画をもとに定期的に更新しています。（R7年度購入高：1,651千円）

持続可能な地域医療提供体制を確保するための経営基盤の強化

地域の中核病院として、地域医療を守るため、収入の確保・支出の適正化に努め、持続可能な経営を目指す

非常に厳しい経営状況

経常収支について、計画値▲2.3億円を約14億円下回る決算となり、非常に厳しい状況であると言わざるを得ない。
当センターのポテンシャルを最大限発揮できるような体制整備を進め、目標以上の収益の確保を目指す必要がある。また、費用については、費用対効果を十分に検証するほか、持続可能な病院運営を実現するためには、抜本的な改革が必要だと考える。

総合評価
B

収入の確保

病床利用率	A評価
DPC収益	A 評価
新規入院患者数	A 評価
新規外来患者数	A 評価
査定率	B評価

支出の適正化

経常収支比率	B 評価
修正医業収益比率	B 評価
給与費対医収比率	B 評価
材料費対医収比率	B 評価

施設・設備の適正管理と整備費の適正化

器械備品等整備費	C評価
バックアップシステムの運用	A 評価

33

病床利用率（7対1病床）

R7目標値：74%

R7実績

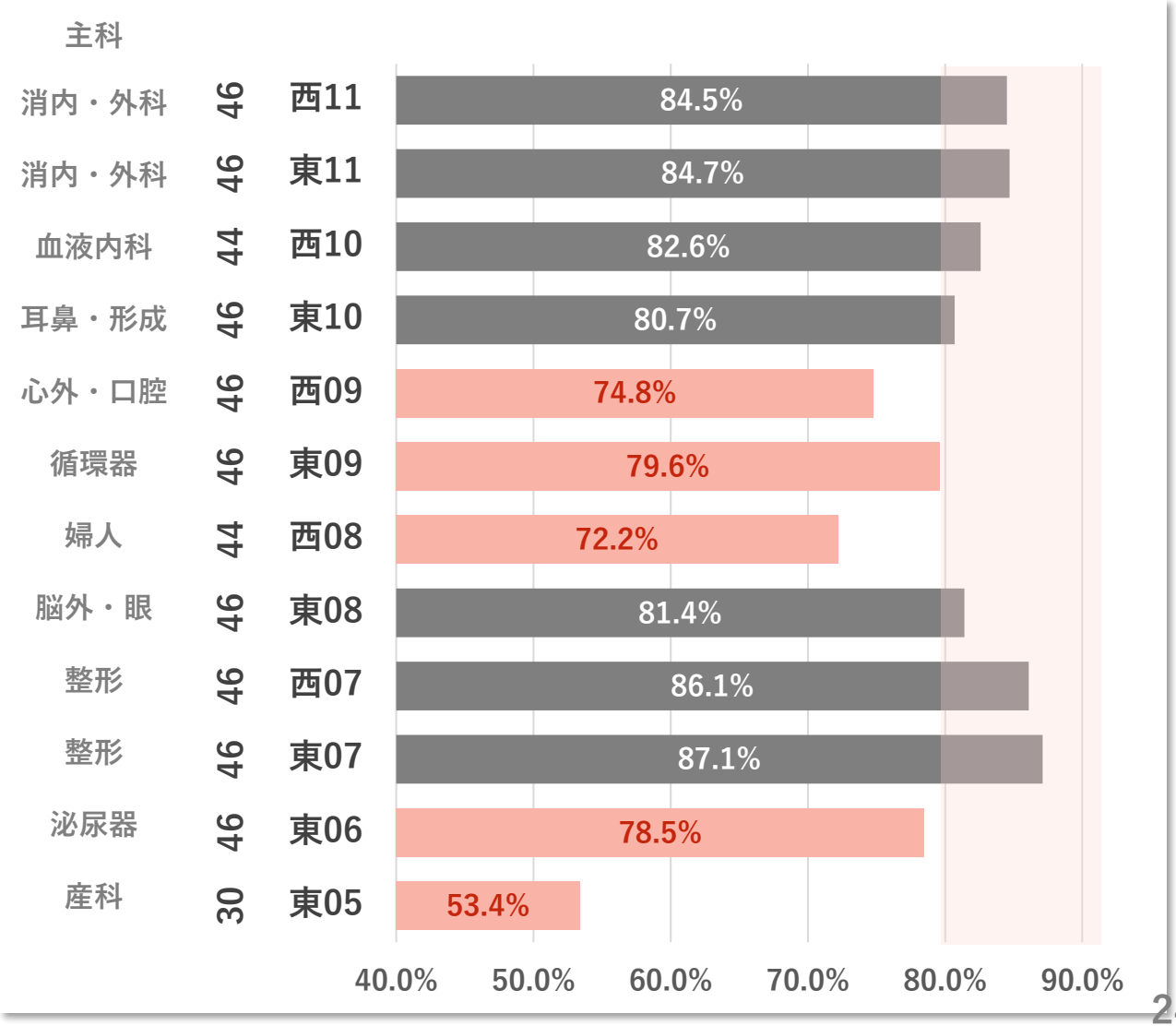
74.3%

A

自己評価

- **平均で100床以上空床**
  7:1実働病床ベース：平均108床 空床
  西12・東5除く7:1 ：平均94床 空床
  更なる利用率向上に努める必要がある。
- **R8診療報酬改定**
  DPC期間Ⅱの中央値化による短縮等DPC制度が大きく変わることを踏まえ、在院日数の戦略的なコントロールなどを強化していく必要がある。

7:1病床	西12除く	西12・東5除く	重症病棟
74.3%（/570床）	79.6%（/532床）	81.2%（/502床）	74.3%（/42床）



34

DPC収益

R7目標値：59.8億円

R7実績

62.1億円

A

35

新規入院患者数

R7目標値：14,300人

R7実績

14,728人

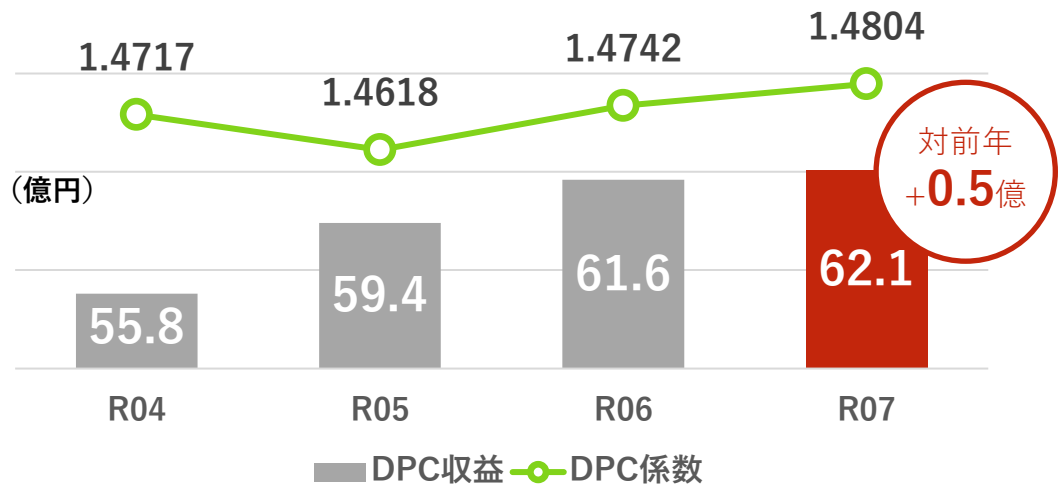
A

自己評価

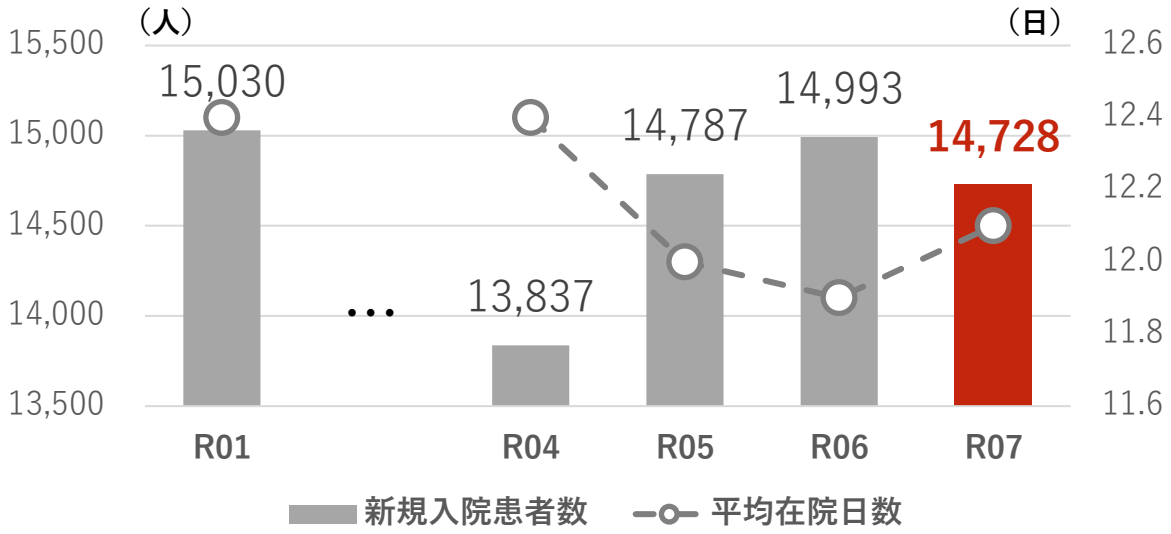
- **DPC係数の上昇**
  ＋0.0061（1.4742→1.4804）約**25,000**千円
- **DPC収益の単価が高い症例数の増**
  股・大腿部の骨折　+117件（405→522件）
  心不全　+45件（90→135件）
- **整形外科の新規入院患者数の増加**
  骨折患者（2次救急）：+155人（33人→188人）
- **婦人科の新規入院患者数の減少**
  子宮がん患者：▲103人（334人→231人）

いずれも目標値を達成したものの、対前年比は新規入院患者数が減少し、延患者数が微増であったため、DPC収益は微増に留まりました。DPC収益の更なる増加に向けて、期間Ⅱ以内を過度に意識することなく、患者数増加を目指していきます。

DPC収益の推移



新規入院患者数・平均在院日数



期間Ⅱ以内の退院割合

R04	R05	R06	R07
58.8%	63.1%	62.1%	61.6%

複雑性係数

R6.6.1～	R7.6.1～	差分
0.01409	0.02151	+0.00742

(前年10月～当年9月までの実績に基づく係数)

整形外科

骨折

R6：2,001 人

+175 人

R7：2,176 人

婦人科

子宮がん

R6：1,176 人

▲247 人

R7：929 人

延入院患者数（人）

R04	R05	R06	R07
171,831	176,737	178,176	178,258

36

新規外来患者数

R7目標値：25,200人

R7実績

26,410人

A

37

査定率

R7目標値：0.53%未満

R7実績

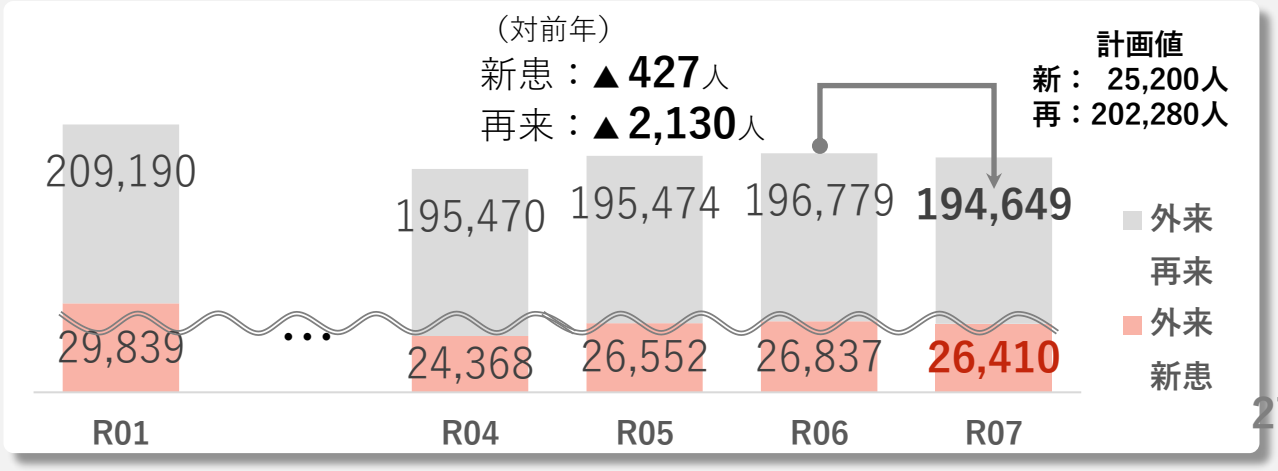
0.58%

B

自己評価

- **呼吸器内科の新規外来患者が増加**
  +157人（146人→303人）
- **形成外科の新規外来患者数が減少**
  皮膚皮下腫瘍摘出術　▲167人（634人→467人）
- **形成外科、産婦人科の再来患者が減少**
  形成外科：▲1,547人（12,398人 → 10,851人）
  産婦人科：▲1,933人（22,914人 → 20,981人）

新規外来患者数は目標値を上回ったものの、
延外来患者数は計画値を下回りました。



38 **経常収支比率**

R7目標値：100%

R7実績 94.0% B

39 **修正医業収益比率**

R7目標値：85%

R7実績 82.3% B

40 **給与費 対医業収益比率**

R7目標値：51%

R7実績 55.3% B

41 **材料費 対医業収益比率**

R7目標値：31%

R7実績 33.7% B

自己評価

- **経常収支比率は100%を下回り、経常赤字**

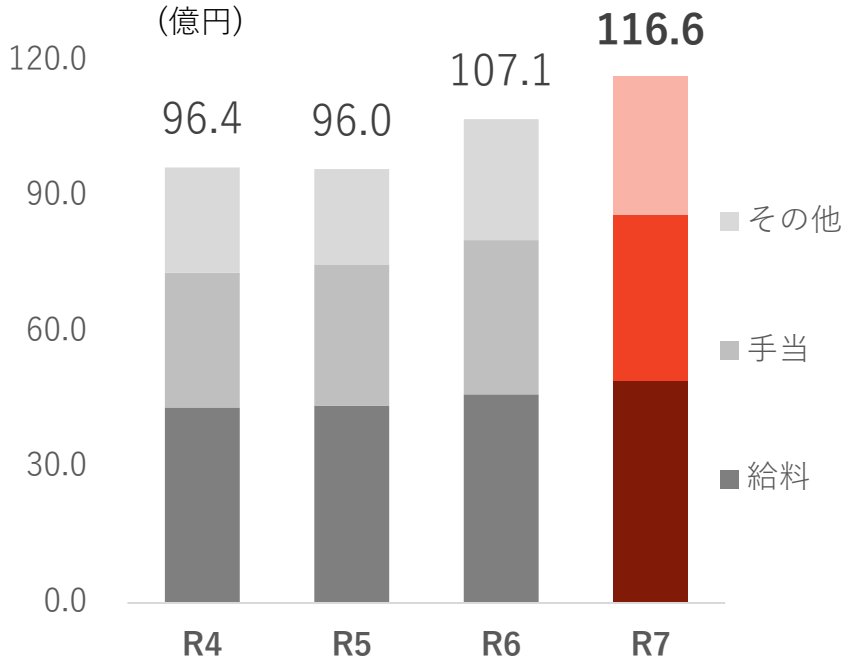
- **給与費　対前年度比+9.5億円**（+8.9%）
  主因は実働人数の増加・給与の増額改定
  給与費対医業収益比率も目標未達

  給与費は、R8年度から看護補助者を10人以上減少させるなど削減策を講じてはいるが、今後も費用対効果を検証した人の採用を行っていく必要があると認識している。

- **材料費　前年度比＋2.2億円**（+3.2%）
  高額な診療材料の使用量が増加
  材料費体医業収益比率も目標未達

  高額な材料費は医業収益に償還されるものの、薬価引き下げで利ザヤは確実に小さくなってくることから更なる費用削減に努める必要があると認識している。

給与費の推移

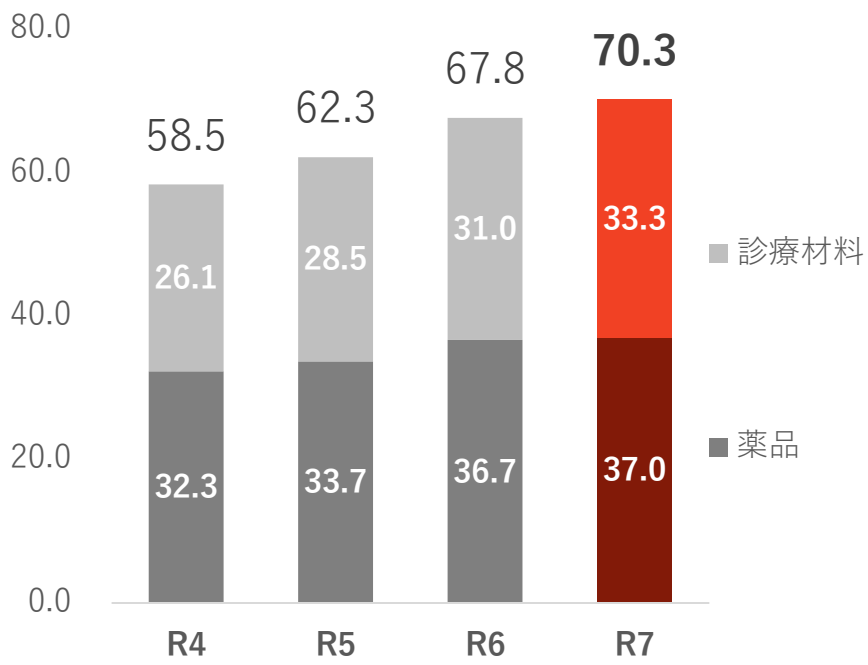


医収比率

R6：**50.8** %

R7：**55.8** %

材料費の推移



医収比率

R6：**32.2** %

R7：**33.6** %

月平均支給人数

R6：**1,226** 人

R7：**1,265** 人

平均月額基本給

R6：**30.3** 万円

R7：**31.4** 万円

10万円以上の診材使用量

R6：**4,775** 個

R7：**5,956** 個

手術材料収入

	（循環器）	（整形）
R6：	**9.7** 億	**4.9** 億
R7：	**10.4** 億	**5.2** 億

42 **器械備品等整備費**

R7目標値：13.4億

R7実績 16.7億

Ⓒ

43 **バックアップシステムの運用**

R7目標値：実施

R7実績 実施

Ⓐ

自己評価

- **病院情報ネットワークシステム更新**
  計画値+2.6億円（7.8億→10.4億）
- **高額な部門システム更新の前倒しによる増**
  （内視鏡部門システム・麻酔記録システム）
- バックアップシステムは、R6年度に策定した情報セキュリティに関する事業継続計画(BCP)に基づき適切に運用を行った。

資本的支出　実績

（単位　億円）

科目	R6 実績	R7 計画値	R7 実績	計画との比較
建設改良費	7.98	**13.40**	**18.11**	**+4.7**
うち医療機器関係	0.03	**4.10**	**6.20**	**+2.1**
うちシステム関係	6.55	**7.89**	**10.47**	**+2.6**

評価の視点を取り入れた経営の推進と経営形態の調査研究

安定した経営基盤の下で、将来にわたり、持続可能な医療提供体制を確保するため、他の経営形態の動向等について調査研究を進めます。

地域医療構想2040も踏まえた経営形態の検討を

外部評価を踏まえた経営の推進に関しては、「病院経営評価委員会」において、外部有識者からの意見等を伺いながら病院運営を行うことができている。
経営形態については、今後公表される「地域医療構想2040」における機能分化等の内容も踏まえながら、経営改善のトリガーの一つとして経営形態見直しの研究を続けていただきたい。

総合評価
A

「病院経営評価委員会」の評価等を踏まえた経営の推進

- 病院経営評価委員会の設置と運営 — A評価
- 評価結果のWebサイトでの公表 — A 評価

経営形態の調査研究

- 経営形態に関する調査研究 — A 評価
- 再編・ネットワーク化に関する調査研究 — A 評価

44	病院経営評価委員会の設置と運営 R7目標値：実施	R7実績 実施	A
45	評価結果のWebサイトでの公表 R7目標値：実施	R7実績 実施	A
46	経営形態に関する調査研究 R7目標値：実施	R7実績 実施	A
47	再編・ネットワーク化に関する調査研究 R7目標値：実施	R7実績 実施	A

自己評価

- 病院経営評価委員会を年2回開催
- 当委員会で点検・評価した結果を踏まえた評価票をWebサイトで公表し透明性を確保

- **地方独立行政法人化について調査研究**
  当センターの経営状況が悪化している最たる要因が**給与費の増加**であることから、現在の地方公営企業法全部適用より弾力的な運用がしやすい地方独立行政法人化について調査研究を進め、令和８年度中に一定の方向性を整理することとしました。